

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第32号 ☆ ☆

マイ スカイ

1997年3月13日木曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

とうじ 答辞 今静かに目を閉じますと、過ぎ去った三カ年の様々な思い出が浮かんでまいります。

何もかもが新鮮で期待と不安に胸膨らませながら臨んだ入学式。クラス一つになり、友情の和をより広げた体育祭や文化祭。また、二年生の修学旅行は自然の雄大さに感動し、戦争の悲惨さに触れ、平和への願いを強くした貴重な体験でした。真夏の太陽の下で、雪の舞う寒さの中で友と励まし合い、厳しい練習に耐えた部活動。自分との闘いだった受験勉強。

そして、学年、学校全体で取り組んだ部落問題学習。私たちはこの全体学習で、涙を流しながら自らの思いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共に感じ合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。「本音を語る」たったそれだけのことが、どれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で初めて知りました。部落問題学習に取り組んでいた時の私たちは「輝いていた」と自信をもって言うことができます。

私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生の皆様に託します。

かれこれ4年も前になる、卒業式の答辞です。この文章を読む度に、全体学習の原点を思い起こさせてくれます。泣いたり、怒ったり、笑ったり、喜んでみたり……ときには泣き笑いや泣き怒り(?)もありました。本当に喜怒哀楽の豊かな、感性の豊かな子どもたちでした。卒業あたりに吹く春風が頬あたりをかすめる度、思い出します。懐かしい思い出です。

さて、今年の卒業式では、どんなドラマに巡り会えるのでしょうか。それもまた楽しみです。全体学習の元で育った3年生の姿を、心待ちにせずにはいられません。

それと同時に思い出すのが、「峠」の詩です。現1・2年生はなじみが薄いかもしれませんね。でも、3年生には思い入れが深いのではないのでしょうか。

山卡

ま かべ じん
真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。
 峠には訣別^{けつべつ}のためのあかるい憂^{ゆう}愁^{しゅう}がながれている。
 峠路^{とうげじ}をのぼりつめたものは
 のしかかってくる天碧^{てんぺき}に身をさらし
 やがてそれを背にする。
 風景はそこで綴^とじあっているが
 ひとつをうしなうことなしに
 別個^{べっこ}の風景にはいつてゆけない。
 大きな喪失^{そうしつ}にたえてのみ
 あたらしい世界がひらける。
 峠にたつとき
 すぎ来しみちはなつかしく
 ひらけくるみちはたのしい。
 みちはこたえない。
 みちはかぎりなくさそうばかりだ。
 峠のうえの空はあこがれのようにあまい。
 たとえ行手^{いくて}がきまっても
 ひとはそこで
 ひとつの世界に別かれねばならぬ。
 そのおもいをうずめるため
 たびびとはゆっくり小^{しょう}便^{べん}をしたり
 摘^つみくさをしたり
 たばこをくゆらしたりして
 見えるかぎりの風景を眼におさめる。

「日本の湿^{しめ}った風土^{ふうど}について」より

最初に読んだ人が必ず「ようわからん」と言う詩です。確かにわかりにくいかもしれませんが、でも、読めば読むほど味が出てくるんです。特に、いろんな節目節目^{ふしめふしめ}に読む度に、

その味わいは深くなってきたように感じます。

昨年こぞの夏、私は日本の北アルプスといわれる山々に登山する機会を得ました。剣山のよ
うな山に登ったことは何度かありますが、本格的な登山は初めてでした。その間、私の前
に広がる光景は、まるで別世界でした。3000m級の山々の峰を山歩きするのですが、それ
はまさしく、詩「峠」と重なるものでした。「峠は決定をしいる……あかるい憂 愁が…
・天碧てんぺきに身をさらし……ひとつをうしなうことなしに……大きな喪失そうしつに……すぎ来しみちは
……ひらけくるみちは……たとえ……おもいをうずめるため……見えるかぎりの……」こ
れらの言葉が、峠で座る私の中を流れるようによみがえり、節目節目で読んだ頃のことを
思い出させたのです。すごく懐かしい気分になりました。それだけでも、「来た甲斐かいが
あった」と感じました。また、「自分は今までこんな感動を味わわずにいたのか……」と
も感じましたし、「人生で一度は、みんなを登山に連れて来たいな……」とも思いました。
それくらい感動することができたのです。

今1、2年生も一つの峠に、また3年生は大きな峠に登り詰めようとしています。その
登り詰めたしばらくの間、この詩をじっくり味わいなおしてみてください。きっと、みな
さんの心にしみ入るようなこやしとなることでしょう。

3年前に、この大きな峠に登り詰めた一人の女の子から、先日手紙が届きました。

先生元気になっていますか？私は明日T高校を卒業します。といっても、まだ卒業す
るという実感じっかんがありません。まだまだ先のことだと思っていたのに、気がつけば「卒
業」という言葉がとびかうようになりました。アツという間の3年間だったけど、私
はたくさんの人と出会い、楽しい高校生活がおくれました。ときには、「しんどい、
もうダメだ」とあきらめかけた部活、友達の気持ちがわからず悩んだこと、楽しいこ
とばかりではなかったけど、でも悩んだりくじけそうになったときに、私は仲間に助
けられました。そのたびに、「T高校に来てよかった。本当によかった」って思うん
です。

先生、私あのときN高校にじゃなくてよかった。もしN高校に行っていたら、今の私
の周りにいる仲間には出会わなかったと思うし、進む道も変わってたと思う。だから、
これから高校へ行ったり就職する中学生には、自信を持ってそれぞれの道に行ってい
ほしい。「みんなが行くから行く」というのは、何か寂さみしいです。「本当にそれでいい
んかなあ？」とってしまいます。余計なことももしれんけど……。

でも一つ言えることは、自分で「行きたい」と思ったり、「やりたい」と思って進

学したり就職したら、どんなに苦しいことがあっても乗り越えられるということです。

なんかしょうもないことばかり書いて、先生は私が何を言いたかったかわからないかもしれないけど、私はどうしても、「T高校に行ってよかった」ということを先生に伝えたかったんです。本当は会って言いたかったんだけど、いつ会えるかわからないので、手紙を書きました。また会いたいですね。

先生も忙しいと思うけど、頑張ってください。

実は、彼女がT高校に合格したことがわかった数日後、徳島新聞に次のような記事が掲載されました。

～志望校^{しぼうこう}に合格・夢実現へ努力～

3月18日、私は無事志望校に合格しました。合格するまでの道のりは^{きび}厳しく、とても苦しかったです。それは高校入試を簡単に考えていたからでした。今の成績で志望校は^{むず}難しいと分かり、必死で勉強したけど成績は思うように上がらず、途中で志望校をあきらめてほかの高校に^{へんこう}変更しました。

入学願書提出一週間前に担任の先生から「前の志望校を受験してみては」と言われ、二日間悩み続けました。やはり当初^{とうしよ}の志望校に行きたいという気持ちが90%あり、石にかじりついて絶対合格をと思い、今まで以上に勉強し、毎日が本当に苦しいものでした。その苦しみを乗り越えて頑張ることができたのは、高校に合格して同和教育をやりたかったからです。担任の先生もそのことを知っていたので、^{すす}勧めてくれたのだと思います。

合格した今、先生の期待に応えられるように先輩、友達と一緒に、苦しいことやつらいことも、中学時代にみんなで取り組んだ授業を思い出し、高校でも自分の思いを語って、部落問題の解決に向かって頑張ります。

私の闘いがこれからスタートします。後戻り^{あともと}することなく、少しでも前進することを望んで、四月から^{たいぼう}待望の高校で一步ずつ達成していきたい。

そして、「昨日の自分より今日の自分が好き」になれるよう、頑張っていこうと思います。

1994年3月31日徳島新聞「読者の手紙」より

手紙の彼女が、受験勉強のときの気持ちを新聞社に投稿したのです。

人はどうしても「入ること」にばかり気をとられることが多いようです。でも、本当に大切なのは、その中でどう過ごすかであり、出るときにどんな思いで卒業していくかではないでしょうか。それがはっきりあれば、高校生活も有意義^{ゆういぎ}なものになるでしょうが、も

紙上でお目にかかれるかもしれませんが、3年生のみなさんとはここでお別れです。まだまだみなさんの人生はこれからで(私もですが)、自ら切り開ける未来が、^{おおなばら}大海原のように^{がんぜん}眼前に横たわっています。限りなき未来へ、チャレンジしてください！その頃私も、別の^{うなばら}海原にチャレンジしていることでしょう！共にチャレンジし続ける仲間として、常に手を^{たす}携えようではありませんか！互いの未来に祝 ^{しゅくふく}福あれ！！

★ ★ ★ ★ ★

3月15日(土) 卒業式、卒業イベントinさくらホール(さくらホール)

16日(日) 学習会閉講式・お別れ遠足(7:30~18:30:大阪天保山海遊館)

24日(月) 1996年度修了式



学習会クリスマス会